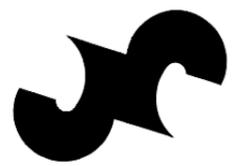


# 工業部会通信



発行元：相模原商工会議所  
工業部会  
編集：かながわ経済新聞  
代表：千葉龍太  
〒252-0239  
相模原市中央区中央3-12-3  
TEL：042 (851) 3021



## 工業部会の所属企業

# 県内最大展示会で脚光

## テクニカルショーウ2016

県内最大級の工業技術総合見本市「テクニカルショーウヨコハマ2016」が2月3～5日までの3日間、パシフィコ横浜（横浜市西区）で開かれた。37回目となる今回は、県内中小企業を中心に過去最多となる595社・団体が出展。それぞれの独創技術をアピール。工業部会の所属企業も参加。「メイド・イン・さがみはら」の製品群は、来場者からの注目を集めていた。  
(かながわ経済新聞)

出展した工業部会企業は、ブルー・スターR&D、相模螺子、大島機工、東邦電子、星工業、東鈴紙器、コバヤシ精密工業など多数だった。このうち、東鈴紙器は、得意とする段ボール加工技術を使って開発した幼児用家具を展示した。段ボール製のゆりかご、0



過去最多の出展数となった会場内

2歳までのベビーチェア・デスク、3～6歳までのジュニアデスク・チェア、幼児が自ら玩具などを片づける収納ボックスなどの商品ラインアップを紹介。段ボール家具は、安全なのに加え、子どもの成長に合わせて手軽に購入できる。不要になれば資源リサイクルにも回せる。また、同製品は開発に女性が関わり、ママ目



人気を集めたペッパー

「すれなくん」をPRした。同商品は、角印・ゴム印をきれいに押せるお助けグッズで、2年前に発売した。契約書や小切手、領収書といった大切な書類に押す角印を、曲がらずにまっすぐに押せる「位置決め垂直器」としている。同社の山口伸治社長は「すでに累計5000個販売した」とも明かした。ブースでは、T字型の形をした同商品が多数並べられて、来場者たちの興味を引いていた。一方、ブルー・スターR&Dは、昨年に「かながわ産業ナビ大賞」を受賞した超音波によるバリ取り装置を公開。ブース内で実機も置いて、

「平成一七年度トライアル発注認定制度」の認定製品を紹介した相模原市ブースでは、さがみはらロボットビジネス協議会が開発した製品PRソフトラウエアを搭載したペッパーも登場した。なお、テクニカルショーは、神奈川県産業振興センター（KIP）と横浜市工業会連合会、県、横浜市主催。「未来をひらく新技術」をテーマに毎年開催しているものに、開催中は累計で約3万人が足を運んだ。会場は、加工技術や生産（装置）のモノづくり系からビジネスソリューションといったIT系、産学公・企業間ネットワークなど5分野のゾーンに分かれた。



活発な情報交換が行われた交流会

工業部会KIZUNAプロジェクト（那須隆仁委員長）は2月8日、相模原市民会館で「会員交流大会を開催した。市内工業系企業経営者ら31人が参加。情報交換などを行った。この交流大会は、事業者間の人脈づくりを目的に開催している。仕事だけでなく趣味など、さまざまなテーマで交流。

## KIZUNAプロジェクト 会員交流大会を開催

会場内には掲示板が設置され、いつでも自由に情報発信できるのがこの交流会の特徴。掲示板には当日限定の情報や、製品開発の相談なども掲示された。

## 「IoT」テーマに勉強会

### ロボビジネス 協議会 利用効果など知る

さがみはらロボットビジネス研究会（渡辺将文会長）は2月5日、「IoTのづくり×IoT」でビジネスが変わる」と題したセミナーを開催した。市内企業経営者ら53人が参加。ロンド・アップリウエアサービスの中崎

勝氏が講師となり、中小製造業におけるIoT活用ポイントについて解説した。中崎氏は「IoTは旬のワードではあるものの、正しい認識がされていない」と述べ、「ものづくり業者」「設備業者」「サービス供給業者」それぞれ活用の違いに触れ、具体的な利用シーンや効果について解説した。また、IoTの普及によるソフトウェアエンジニアリングの可能性にも言及。「ソフトの技術は海外から取り込み、自動機やロボットなど日本企業が強いハードの分野に応用していく事が理想」とした。

相模原商工会議所近未来技術研究会 特別公開講演会

# 宇宙ではばたくころのとり

大人も子どももみんながわかる宇宙の近未来

平成28年 3月4日(金) 開場/17:30～ 開演/18:00～19:30

相模原市立産業会館ホール  
相模原市中央区中央3-12-1

講師 宇宙航空研究開発機構(JAXA) 植田 聡史氏

